

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190201764		
法人名	社会福祉法人 勤医協福祉会		
事業所名	グループホーム東苗穂こすもす(赤ユニット)		
所在地	札幌市東区東苗穂5条1丁目11-1		
自己評価作成日	令和 5年 3月 10日	評価結果市町村受理日	令和 5年 4月 17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action kouhyou_detail 022 kani=true&JigyosyoCd=0190201764-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5番5号 芝生アパートSK 103号		
訪問調査日	令和 5年 3月 30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ゆっくりゆったり、自分らしく」をモットーに、その人らしい生活を大切にしております。その方の能力・特性を見極め残存能力を生かした生活支援を実践しております。最期まで住み慣れた場所グループホームで過したいという、ご本人様やご家族様の思いに寄り添い、終末期の学習を行いお看取りさせていただいております。入居者の高齢化、重度化に伴い身体的状態や精神状態の変化に、職員一人ひとりの気づきを大切に、職員間の情報共有と医療機関との連携を密に、訪問診療や訪問看護に些細な事でも報告相談しながら、入居者様の健康を守り不安なく生活できるよう努めております。現在、入居者の平均年齢は91歳と高齢化が年々進んでおりますが、最期はグループホームで迎えたいという願いを叶えられるよう、支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は令和4年4月より勤医協中央病院の斜め向かいの勤医協札幌東ビルに移転し、1階には薬局、2階には小規模多機能型居宅介護と訪問看護ステーションがあり、3階に2ユニットの当該グループホームがある。建物内はエアコンが完備され、浴室には機械浴設備を備えている。食堂を兼ね備えたりリビング内は天窗になっており、日が差し込むなど明るく広い空間となっている。利用者はリビング内でゆったりと長時間思い思いに過ごして居る。地域交流に向け、町内会への加入や高齢者の見守り、地域住民の健康相談等を検討している。「ゆっくりゆったり、自分らしく」を事業所理念として、その人らしい生活を大切にしている。本人や家族の希望で最後まで住み慣れたグループホームでの看取り実績もあり、職員は日々終末期の学習を積み重ねている。入居者の健康管理には職員間の情報共有と共に法人関連の医療機関及び訪問看護ステーションの協力も得ながら24時間体制で連携し、不安なく生活できるよう支援している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	○			○	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に根ざす事業所として「ゆっくりゆったり」「その人らしく」安心して生活できるよう、理念を職員とともに共有し、日々の支援が実践できるように心がけている。	法人綱領、介護職員理念、事業所理念「ゆっくりゆったり、その人らしく」を職員が共有し、日々の支援に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍にて、地域とのつながりを持つのは困難であった。	コロナ禍にあって、3月からは家族との面会を行っている。動向をみながら、地域高齢者の相談を玄関先で対応している。町内会への加入も検討している。	移転して1年経過するも、コロナ禍で町内会との交流が出来ていない為、終息後の交流を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍でもあり、健康相談会、認知サポーター養成講座の開催はなかったが、いつでも相談ができる場所として地域の人々へ発信していきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度はコロナの影響もあり、電話やFAX、文章での共有が中心となっている。	2ヶ月毎の運営推進会議は書面会議で、看護小規模多機能型居宅介護「こもれび」と合同で開催している。利用状況や事故報告、行事、前回の会議における意見・要望等の確認をしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月の入居状況調査票を報告している。グループホームの運営に関して分からない事があれば札幌市の介護保険課に問い合わせをするなど、協力関係を築くようにしている。	区役所の担当者とは入居状況等の報告をしている。運営に関する問い合わせは札幌市介護保険課の担当者と連携する等協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を中心に事業所内研修を行っている。外部の研修に参加後は伝達講習を行っている。玄関の施錠は日中はかけていない。身体拘束適正化委員会を開催し身体拘束をしないケアに努めている。身体拘束は行っていない。必要な場合はご説明の上、ご家族の同意を得ることとなっている。	3ヶ月毎に身体拘束等適正化検討委員会を中心に身体拘束廃止に関する指針の学習やオンデマンドによる研修会を行っている。毎月チェック表を活用して身体拘束をしないケアに努めている。必要な場合は本人、家族に説明し同意を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内、外部研修に参加できるように努め、参加後は伝達講習を行っている。また、不適切なケアは朝の打ち合わせや部会、カンファレンス等で職員間で話しあい不適切なケアを防止している。		

グループホーム東苗穂こすもす(赤ユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在活用する事例はないが、管理者やケアマネージャーを中心に学習し、職員と共有しながら支援の際は活かしていけるよう取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の契約時や改定の時には、ご家族さまに時間をいただけるようお知らせし、不安なこと、疑問な点などを話していただいたうえ理解と納得していただき契約を交わしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様が来訪された時、モニタリングの聞き取り時に要望がないかなどお聞きしている。要望があれば反映できるよう努めている。	利用者とは日頃の会話等から意見や要望を把握している。家族等からはモニタリングの聞き取りの際に意見や要望がないか確認し、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部会での意見や要望をもらいながら、業務改善につなげたり、ひとりひとりの意見を聞きながら運営に反映できるように努めている。	全体会議やユニット対象のコスモス部会、カンファレンスの際に一人ひとりの意見を聞きながら、処遇改善に関する意見、提案、個人目標等を把握して運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則に基づき、働きやすい環境に努めている。職員の意見や要望に応えられるよう努力をし、必要時職場環境の改善や労働条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の実践とステップアップのために、研修に参加しサービスの向上につなげてもらえるよう努めている。 コロナ禍のため、WEB研修等に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍にて行えていない		

グループホーム東苗穂こすもす(赤ユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人、ご家族様から情報を聞き取りし困りごと、要望は何かを知る事で職員間で共有し、入居後も安心して生活がおくれるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っている事、ご本人にどんな風に過ごしていただきたいかなど情報をもらいながら、入居後の生活や環境に反映し何でも相談していただけるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状態についてアセスメントを行い、ご本人はどのように過ごしていきたいのか、ご家族様が望んでいる事を聞き取りした上で、必要としている支援を見極めながら情報を共有しサービス提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立できる事を考え、自分でできる事、できない事を見極めながら、役割を持っていただく事で自信となり不安なく過ごせる関係づくりをしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や来訪時には、日々の様子をお伝え、ご家族さまに病院の受診介助もご協力していただく事もある。認知症状や病気の事で不安な事があればお話を聞き、必要であれば医療に繋ぐなど関係を築いている。共に本人を支えていけるように意向を確認し情報を共有しながら一緒に行うようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や、親戚、知人が来訪された時には、気兼ねなくゆっくりと過ごしていただけるよう配慮につとめているが、コロナ禍となり電話や窓越しでの関係の継続となっている。	コロナ禍の中、友人や知人には手紙、電話の取次ぎ支援をしている。親族、子供や孫等にはドア越しでの対面支援をしており、3月からは予防対策を講じた上、15分以内での居室内部面会を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤独にならないように、入居者間の交流の仲介をしたり、一緒に家事手伝いや体操の声かけに努めている。認知症の重度の方でもスタッフが間に入り、入居者同士の関わりが持てるように努めている。		

グループホーム東苗穂こすもす(赤ユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	該当はないが必要に応じてフォローしていく。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での会話や個人カルテから情報を共有し、入居者さまの意向に添えるように努めている。	職員が少人数の集まりを利用し、記憶の回想から利用者の希望や意向を把握している。入居時に家族からも利用者の経歴や習慣等を把握している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報をご本人、ご家族様から聞き取り、必要時医療機関や福祉関係者から情報収集し把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の様子を観察し、体調変化があれば職員間で情報を共有し必要時医療機関へつなげる。毎月、部会、カンファレンスを行い現状を把握している。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスやモニタリングで課題やケアのあり方を職員の意見やアイデアを反映し現状に適した、介護計画を作成している。	介護計画は短期3ヶ月、長期6ヶ月で見直し、家族の同意を得ている。利用者の状態変化時には都度見直しをしている。モニタリングは利用者一人ひとりの担当制で毎日行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、支援計画で情報を共有し、カンファレンスでも確認しケアプランの見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外来受診の送迎や付き添い、役所の手続きなど、入居者様の個別なニーズに対し柔軟な支援に取り組んでいる。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為、地域資源の活用がで困難であった。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を聞きながら、かかりつけ医との関係を作り、受診に繋げている。	利用者及び家族が希望するかかりつけ医を受診している。受診状況によっては職員が対応している。法人関連医療機関(内科)による往診診療も行っている。定期的に歯科衛生士による口腔ケアや歯科医による訪問診療も行っている。		

グループホーム東苗穂こすもす(赤ユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員との日常的な情報共有や、観察ポイントの共有化などを行いながら、適切な受診や看護を受けられるようにしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療機関にフェースシート、アセスメント表で情報提供を行い、また、急性期が過ぎ、退院のタイミングについて医療機関と相談を行い、入院が長引かないよう連携を図っている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	意向の確認は入居時と入居後の状態を見ながら、ご家族やご本人に確認している。また、往診にて、ご家族にも同席していただき、現状の状態説明と終末期について確認をしている。1回と限らずその都度丁寧に説明に努めている。同時に、訪問看護とも共有している。	入居時と入居後の状態を見ながら「重度化への対応指針」を本人・家族に説明し、同意を得ている。終末期については医師の往診による家族同席のもとで状態説明と終末期について確認をしている。2名の看取りを行っている。24時間体制で医療現場と連携している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルはあるが、実践による訓練にはつながっていない。今後はBLS講習など位置付けていきたい。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上の避難訓練の中で火災だけでなく地震、水害の訓練も行っている。消防団、民生委員、町内会の防災担当の方にも参加していただき協力体制を築ける様検討はしているが、コロナ禍のため、参加頂けていない。	ビル内合同で年2回(R4.12.14、R5.3.29)火災、水害、地震を想定した避難訓練(昼・夜)を設備会社の協力のもと実施している。コロナ禍のため消防団初め地域の協力が困難なところから自主訓練を行っている。飲料水や食料の他発電機等の非常用備蓄品を保管している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者ひとり一人の状況に合わせた対応ができるよう、職員同士情報を共有し支援方法に反映させている。ご本人を尊重しプライバシーへも配慮しながら、丁寧な声掛けと対応を行っている。	職員でスピーチロックや人格の尊重、プライバシーの確保について意見を出し合い、学習を積み重ねながら丁寧な声掛けに努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が自己決定ができる声かけ、本人の希望が言えるよう支援に努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースに合わせて支援を行っているが、希望に添えない時には丁寧に説明し、日を改めて支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や気温に合わせた衣類を着ていただき支援を行っている。出張美容サービスを利用し身だしなみに配慮をしている。			

グループホーム東苗穂こすもす(赤ユニット)

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の状況を見極めながら、食器洗いや、お膳を下げて頂いたりなど行っている。	セントラルキッチン方式で毎日のメニューに基づいて食材が届けられている。利用者の希望を取り入れたり、アレンジをして、職員が刻み食やミキサー食、とろみ食などに調理して提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は個人カルテに記入している。個別によって水分量も違うが、水分がすすまない方にはゼリーにしたり、飲み物を工夫したり状況に合わせて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声かけをし、必要時介助を行っている。その方によっては使用歯ブラシも異なる。口腔内で気になる事があれば、歯科往診へ繋げている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人カルテで排泄パターンを把握し、声掛けのタイミングなど工夫しながら、トイレで排泄ができるよう支援している。車椅子の方でもトイレで排泄ができるよう状態を見極めながら自立支援を行っている。	利用者の排泄パターンを基に声掛けのタイミングを工夫しながらトイレでの排泄を支援している。2人介助によるトイレでの排泄支援も行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	状況の応じて乳製品摂取している。また、個別での排泄状況を見ながら内服薬で調整を行ない、食事量や水分摂取を促し、歩行運動や腹部マッサージ等を行い、スムーズに排便に繋がるよう支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日程が決まっている方もいるが、入浴チェック表で確認し、入りたくない時は次の日にずらしたり、また体調を考慮しながら入浴の日を個々の状態に沿って支援している。	週2回、午前9時30分から午後3時30分を基本に体調を考慮し、入浴日を利用者に合わせて支援している。清拭、足浴、職員2人で対応の機械浴も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日ご本人の体調や本人の意志のもと、居室で休息をしていただいたり、居室の湿度や温度にも気を配り休息ができるよう配慮している。また、寝つけない方には飲み物を提供したり個別対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医から処方された薬剤情報は個人カルテに綴じており、いつでも確認ができる。薬剤師と入居者の状況を共有し支援につなげている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	居室でテレビを観たり、趣味で物作り、読書をする方もいらっしゃる、自分の時間を楽しめるよう支援している。お誕生会、季節行事や体操等を提供支援している。		

グループホーム東苗穂こすもす(赤ユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度は、コロナ禍のため行えていない。外出も控えていただいている。	コロナ禍のため計画的な外出は自粛しているがリビング内での体操、遊戯、お話し、ボールゲーム等で楽しんでいる。近隣にある勤医協中央病院での買い物支援をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金を所持している方がいる。自分で買い物に出かけられない方は職員が代行で欲しい物を購入できる支援をしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	贈り物が届いた時は、お礼の電話をかけたり、手紙を出したり支援している。受話器を当てて聞いていただいたり、会話できる方はしていただいている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節によって、湿度、温度調整に気を配り心地よく過してもらえよう工夫を行っている。また、季節感が分かってもらえるように、壁に季節の飾り物を飾ったり、入居者が作った作品を飾ったりしている。	食堂も兼ね備えたりリビングは天窓になっており、明るく開放感がある。エアコンが設置されて湿度、室温が適正に管理され、換気も行われている。テレビの前にはソファがおかれ、テレビを見たり、談笑したりと長時間過ごされる利用者が多い。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事以外の席は決まっていないので、気の合った入居者同士でお話をしたり、一人でゆっくり過ごせるように配慮を心掛けている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、ご家族の協力を得て、馴染みのものを持参していただいたり、ご家族の写真などを飾り、ご本人が安心して過ごされるように工夫に努めている。	7畳の居室にはエアコンが完備され、ベッド、クローゼット、洗面台が設置されている。家族の協力を得て馴染みの物や家族写真を飾るなど安心して過ごせるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレに手すりが設置されて、足の不自由な方でも安心して歩行ができています。居室内は転倒防止に気をつけ、動線を確保したり安全に過ごせるように配慮している。トイレや各居室へはお名前を明記しわかりやすいように工夫している。			